

平成 26 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)  
1 対 1 対談 (大紀町) 会議録

- 1 開催日時：平成 26 年 9 月 2 日 (火) 14 時 40 分～15 時 40 分
- 2 開催場所：大紀町地域交流センター 1 階 アリーナ (大紀町阿曾 3410)
- 3 対談市町名：大紀町 (大紀町長 谷口 友見)
- 4 対談項目：
  - 1 地域医療の充実について
  - 2 地域公共交通について
  - 3 災害対策について
- 5 会議録

( 1 ) 開会挨拶

知 事

大紀町長におかれましては、本日、すこいやんかトークに続きまして、お時間をいただきましてどうもありがとうございます。

また、皆さんも暑い中、引き続きこの対談をお聞きいただきありがとうございます。窓を開けたり、送風機が入っていますが、暑くなって、もし気分とか悪くなったら席を立っていただいても結構ですので、私とすると聞いていただきたいのですが、くれぐれも無理のないようにしていただければと思うところです。

今年度は、来年の 2 月に大紀町も合併から 10 周年を迎える節目の年度であろうかと思えます。この間、谷口町長はリーダーシップを取っていただいて、この町を一体感を持って町民一丸となっていていい町にしていくということで取り組んでいただいていることに心から敬意と感謝を申し上げたいと思えます。

この 1 対 1 対談も 4 回目になりますが、大紀町の旧の町村に関係なく、どこに行かせていただいても非常に歓迎をしていただいて、町が一体となってみんなの前へ進んでいくという思いを持っていただいていることも、非常に感じるところです。

併せて、今年の 11 月には滝原宮の遷宮を迎えるということで、非常に大切な P R のときになっていると思えます。どうか、これからもその情報発信を私たちも本番に向けて、また、本番の後もご協力させていただきたいと思っているところです。

今日は限られた時間ではありますが、町民の皆さんもたくさん聞いていただいておりますので、有意義な時間としていけるようにしたいと思えますので、どうぞよろしくお願ひします。

## 大紀町長

改めてこんにちは。今日は大変、先ほども申し上げましたように、お忙しいところをこのように 400 人を超す皆さんがお集まりをいただいたこと、町長として知事をはじめ県の部長さん方にも鼻が高うございます。応援ありがとうございます。

### (2) 対 談

#### 1 地域医療の充実について

## 大紀町長

まず、知事にお礼を申し上げたいと思います。そして、町民の皆さんにもこの場を借りて報告をさせていただきます。

1 番目の地域医療の充実についてですが、これは我々大紀町として積年の夢でありました。特にここ 10 年ほど合併をして以来、話題にもなり、皆さんご承知のとおりであります。この問題は、現在の厚生連の大台町の三瀬谷にある大台病院は耐震がゼロに近い。入院棟のほうはましですが、国道 42 号から上りにして左側の手術する棟がゼロに近いということでもあります。そういうことで、3～4 年前からなんとか場所を三重県に県立宮川高校の跡地をとということでご無理をお願いしておりましたところ、経緯は時間がないので飛ばしますが、鈴木県政において、8 割は無償で譲渡してもらうこととなりました。場所は今の大台町の施設ですが、2 割だけは大台町と大紀町で買うということで、既に事業は終わりました。そして、8 割は県のほうから無償で、2 割は両町で 1 割ずつ、10% ずつでよく、助かりました。

次に、我々町長の頭を悩ませたことは、4 階建ての鉄筋コンクリート校舎、それと武道館とか体育館です。それを解体するのにどうなのかということでしたけど、ちょうど知事が就任されたぐらいの頃にご無理をお願いして、数億円かかる取壊しを無償で壊してもらったということで助けていただきました。

そして、いよいよ建築ということになりました。25 億円投資し、これは今度新しくできる想像図です。透析の機械数を増やし、立派なものです。今の宮川のほうへ向かって建っています。国道 42 号線を背にし、日当たりもよろしい。これの建築費を厚生連、大台町と大紀町が 10 億円ずつで 30 億円を原資としてやりましょうということになっておりました。

ところが、今、なかなか物価が高いので材料や建設業の労務費が高くなって、不調ということで 4～5 箇月遅れました。どこでも新聞などに載っているのですが、なかなか入札しても落ちないというようなことがありました。結局、厚生連に泣いてもらうことで、我々が 10 億以外出せないということで、お互いに 10 億円を用意しました。

ところが、知事のご判断で、それぞれが 1 億 5,000 万円ずつ補助してもらいまし

た。議員さん方 14 名の先生方がいくら要ってもいい、頑張れということで、全会一致でお認めをいただいて、大台町と大紀町が 10 億ずつ、厚生連が 10 億用意しました。

しかし、なんにしても大台町も大紀町も貧乏ですからということで、知事にご無理を申しあげましたところ、1 億 5,000 万円ずつ補助をしてあげるということで、結局は 8 億 5,000 万円ではよかったと。その 1 億 5,000 万円を、先ほどこここにいた 4 団体に分けてやりたいんです。それをしますと、「旬彩」とか「あすなる会」とか「食生活改善推進協議会」とか、「ひまわり会」の人達が頑張ったので、今日のギャラとしてやりたいのですが、せっかく知事が助けてくれた 1 億 5,000 万を、今度は子どもとか、いろいろな中の機械もあるでしょうし、いろいろありますから貯金をしておきます。4 団体の方は話だけで手形になりましたが、今日はご苦労さん。

そういうことで大変助けていただきましたことに、改めてこの場を借りて知事にお礼を申し上げます。ただ、少し 1 対 1 対談ということは出張ったような仕事ではないと思いますので、あと、三重大の内田学長さんにも進めるのに 2 ~ 3 年入っていただいて、専門的なところのご指導をいただきながらやっております。医師の問題がありますから、知事にも頼んでおきたいのが、良い医者を、それぞれの学校へも大紀町長も大台町町長もお互いに力を合わせてお願いしていますが、またご指導のほど、よろしく申し上げます。

## 知 事

ありがとうございます。今、今回の新大台厚生病院の建設にあたって、町長から県の取組をお褒めいただきましたが、町長さんお二人とも先輩だし、いつもお世話になっているし、僕のところに言いに来るだけではなくて、担当の部長や課長のところにもしっかりと丁寧にお願ひに行っていたり頭下げていただいて、頭を下げることでないですが、来てお願ひをしていただいて、それで実現をした話ですので、それは谷口町長と大台町尾上町長、そして、それぞれの役場の皆さんのご努力であったと思っています。

来年の 4 月か 5 月に開院予定ということですので、工事完了までにしっかり私たちも支援を引き続きしていきたいと思っております。

そこで、病院が建ったあと、医師の確保が大変ではないかということで、今、町長からお話があったと思います。ですので、医師確保をどうしていくかということですが、ちなみに新しい大台厚生病院は、今、診療科目が 8 つあります。内科・胃腸内科・整形外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科、この 8 つあります。この科目を維持しつつ、ベッド数を 95 から 115 に増やそうという形でやっていく新しい病院をめざしていきます。この診療科目の医師をしっかり確保するのが大事になってきます。

今、三重県が医師の確保をするためにやっていることをいくつかご紹介しますが、

一つは、医師の奨学金です。医師が三重県の出身の子だけでなく、全国から医学生を集めたいので、医師が一定の研修を終えた後、三重県で医師をやってくれるのであれば、その大学のときに受けていた奨学金を返還しなくてもいいという、そういう修学資金制度というのがありますが、今の時点で約400人ぐらいの学生に渡していますが、その修学資金を渡してなんとか三重県に定着してもらえるように今やっています。

ちなみに奨学金として出したお金の総額は、全国で2番目に多いので、相当やっていますが、それでもまだまだ医師確保途上ということで、いろんな取組をしっかりとっていかねばいけません、今はそれをやっています。

あとは、人数がしっかり県全体として確保できたとしても、地域ごとに、特に東紀州や伊賀、県内ではそのあたりの医師が少ないんですが、地域にばらつきがあったり、あるいは、先ほどこの新しい大台厚生病院と今の大台厚生病院、今、8つの診療科と言いましたが、小児科とか産婦人科の科目のお医者さんがいない。診療科ごとに偏りがあってはいけませんので、そういうことを配慮した医師確保をしっかりとやっていこうとしています。

今、医師がどうしたら三重県に残りたいと思うかというのを調べていくと、どの県でもそうですが、医師は自分がキャリアアップしていくといいますが、いろんな病気を治すのを経験したり、いい指導をする先生がいたりして、自分のレベルアップをしていく環境があることが医師は非常に魅力を感じるらしいです。そういう場所に定着をして医師としてやっていきたいと思う人が多いようですので、三重県では地域医療支援センターというのを作りまして、そこで医師が魅力的に感じるプログラム、それぞれの科目ごと、内科・整形外科・脳神経外科ごとに柔軟な取組をつくりまして、その魅力的なプログラムを感じていただいて三重県に残ってもらうと。ついでに、そのプログラムの中で県内のいろんな病院を回ってもらって、例えば、大台厚生病院で今回考えているのは、整形外科と脳神経外科のプログラムには大台厚生病院には必ず来てもらって、大台厚生病院の良さも知ってもらって、三重県で定着するなら大台厚生病院でやってみようかと思ったりする機会を提供することを今増やしていただいております。

そのプログラムは厚生労働省の職員や都道府県の職員の投票で一番良い取組と言われたプログラムですが、そういうので今やっているところです。

あと、短期的にも都市部から紹介してもらって来てもらったりとか、そういうような形でやっておりますので、今、町長からお話がありましたとおり、病院の建物ができたのはいいが、お医者さんが少なくならないように、今申し上げたようなことを引き続きやりながら、大台厚生病院を含めてお医者さんを確保できるようにしっかりとりたいと思いますし、併せて、看護師、三重県はお医者さんもさる事ながら、看護師や助産師の確保が非常に課題になっていきますので、そういう方々の確保、今、看護師の方は出産するとお辞めになる場合が結構あるので、そういう方が

戻ってきてもらえるようにとか、あるいは、勤務環境が過酷なので新人が辞めてしまったりというので、そういう離職防止のプログラムをやったり、そんな形で今、看護師さんの確保、医療全体の従事者の皆さんの確保について、これからもしっかり頑張っていきたいと思います。

繰り返しになりますが、来春、開院予定の新大台厚生病院につきましても、引き続き支援をしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

## 2 地域公共交通について

### 大紀町長

続いて2番目の地域公共交通の件ですが、これも県のほうでいろいろな面で手当てをしていただいております。改めてお礼を申し上げます。特に直近ですと、紀勢大内山インターを下りて国道42号へ向かう途中のすぐの所です。南紀高速バスは、今までは国道42号線で全部停まっておりました。大内山地区、柏崎地区、阿曾地区、滝原地区でも停まってもらっていました。

ところが、ルートを高速道路利用に変更し、紀勢大内山インターを下りて、柏崎には停まらないということで、県のほうからご指導をいただきまして、早速、それは2箇月の対応でやらなければいけないということで、三重交通から無理を頼まれて、何とぞということで県のほうへお願いしたら、補助をいただいた。土地は大紀町で買いました。県道部分だけは県で買ってもらいました。間口で20数メートル、奥行きは7~8メートルですが、ちょうど歩道がインターの料金所側にありますので、その部分もかなり奥行きは10何メートルになりましたが、それは上りも下りも全部無料でやっていただきました。ありがとうございました。

それと、いろいろな今の大台病院もあるんでしょうが、既に旧紀勢町当時からコミュニティバスが4箇所ぐらいから出てます。木屋、黒坂、錦、大内山の4箇所から出てますし、スクールバスもそれぞれ中学、高校生ですと松阪や伊勢では下宿代が1人で7~8万円かかります。そして、漫画本屋へ行ったりし、ろくなことがないということや、中学生3年間は地元を愛する気持ちを育む期間だと自分なりに私は考えていますし、ちょうど頭の組織が固まる年代なので、できたら、親御さんにも負担がかかりますし、それは3人も子どもがおれば、年子もあるだろうし、1年生と3年生と兄弟で見なければならぬ。そういった年代ですと、まだ主人も勤めがありますしということでスクールバスを出してます。それについても県さんからいくばくかの補助も出していただいたので大変助かっております。そういうことですので、お礼がてら、県財政も大変でしょうが、そのまま結構です。よろしく願いいたします。うちだけではなしに、そういった遠いところの辺地のところをよろしく願いします。

## 知 事

ありがとうございます。皆様のご案内のとおり、人口が減ってきたりするので、民間のバス事業者の皆さんは、路線を撤退したり廃止したり、もうけていかなければいけませんから、そういうふうに行っている中で、とはいえ、この中山間地域やいろんな集落とかで交通を結んでいくためにバスが必要だということで、行政のほうでコミュニティバスのようなことをやっていたらざるを得ない、そういう厳しい状況にあるということだと思っています。

三重県では29の市町がありますが、そのうち、28の市と町でこういうコミュニティバスのようなバスの運行をしていますが、無料なのは大紀町を含めて4つしかありません。なので、大紀町の皆さんは、町長をはじめ皆さんが本当に苦労をされていてバスの継続をされていてということ、ぜひ知っていただければと思います。県内の中でも4つしか無料でやっているところはありませんので、非常に大紀町の町長をはじめ、町役場の皆さんにはご努力をいただいていると思っています。

国の制度が変わりまして、国も市や町がやるバスは大事だということをやっと分かっていただいて、特に赤字が出ている市町のバスの赤字額の半分を国が補助をする制度が、この平成23年度から誕生をいたしましたので、そういう対策、今後、大紀町のバスの運行状況を見ながら、先ほどの赤字が出た場合においても、その半分以上を何とか国の補助金なども使って、バスを継続していけるように私たちとしてもしっかり支援をしていきたいと思っています。

また、全国にもうまいことやっているバスの路線もたくさんありますので、そういうバスを運行するにあたってのノウハウや良い方法を私たちが市や町のバスをやっていただいている皆さんにしっかり情報提供をさせていただいたり、あるいは研修会みたいなものをやらせていただいて、市町のバスが継続していけるように、その運行をさせていただいている皆さんを応援していく、そういうことも県としてしっかりとやっていきたいと思っていますので、いずれにしても皆さんの足がなるべく止まらないように、元気に活動していただけるように私たちもしっかりサポートをしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 大紀町長

それと同じ事案ですが、地域公共交通のことですが、今、僕が悩むというより考えておりますことは、今言う通院バスや通学バスはみんな100%満足ではないにしても、懸念するのは議会の意見も聞いていますと、子どもがいたとか嫁がいたり娘がいたり息子がいる方はよろしいですが、独居老人はお一人の年寄り、身障者、それでお二人とも元気な方は、病院行きの通院バスに乗ってついでに買い物、時間があるので、ぎりぎり電車で乗るわけではないですから、近くの大台病院なら三瀬谷で何か買うことができるでしょう。バス停まで歩くのも大変な人をどう手当て

していくのかということは、僕の大きな宿題の一つになっています。いろいろと仲間とも話を聞きながら、町村会や市長会の方、県内の方からいろいろ聞かせてもらっても、一長一短があります。大きなことを言うわけではないですが、そこにもまた、知事からも、県庁には賢い人が大勢いるので、知恵を貸していただきたいと思います。予算の後でよろしいので、そのあたりのところも知事のリーダーシップの中で何か良い案を考えていただきたい。我々町村会はほとんど同じような意見です。

会長をしますと、自分のところだけ抜け駆けすることはできず、今は広域行政でしょう、難しいです。住民の皆さんに言い訳をしているわけではないんです。うちから入れるものも出るものもゴミもみんな広域でやっていますね。そのところの谷口友見さんのつらい気持ちをお汲みの方は拍手をお願いします。(拍手)理解をしてくれてありがとうございます。

そんなことで知事、難しいことであります。これから団塊がどうでしょう、あと10年するかしないうちに、この問題が出てきます。

その買物とか、外に出ることで痴呆現象も低下させると。うつとか、テレビばかり見ている人は1人とか夫婦でも。僕もそこへ入っていますから、11月になると75歳ですから。くどくわけではないですが。本心は57歳ですが。そういうことですので、自分もその気になって、この歳になると分かります。これどうだろうという悩みということではないが、頭の痛いところです。お金よりもどういう手法で、役場職員で公用車でやっていいのかどうかということもありますし、そこは難しいところですし、県も知恵を貸してもらって、どうでこうでということではなしに、町村会としても委員会か何かで意見も揉んでもらうようにしようかと思っておりますが、あまり町村会だけですと、知事も気に食わんやろし、困りますし、そのさじ加減をどうしたらいいのか、それをまずは。

しかし、市とか県になると、すごい数です、人口が。これをどうしたらいいかと思っております。返答はよろしいわ。そういうことで、今度は減災のところへいきます。

### 3 減災対策について

#### 大紀町長

3の減災対策ですが、昔、僕が紀勢町長になった頃でしたが、七夕豪雨をしのぐような大変な、ちょうど3年前に平成23年の9月2日から4日にかけて、1,211ミリが正味3日夕方から4日にかけて、特にひどかったです。それで、阿曾区の方が不安にならないように、(スクリーンの画像を見ながら)宮原医院の裏です。これはできたところ、これは駅です。あれは平瀬橋というんです。ちょっと山のほうは阿曾駅です。これだけやられたんです。大体300mぐらい、全部復旧しました。復旧のところ、これできました。これは県さんのほうで助けてもらいました。知事

が就任して間なしでしたか、春でしたな、その秋だったので、何かしらんけど続いとるんやな。就任してから平成 23 年が人生いろいろポイントやったので。大当たりや。ちょうど右側のとこ出ると 100m で宮原医院です。

そういうことで、全町的に相当特に下からずっとやっていただいて、国も県も。数十億の、資料はありませんが、知事が先頭きって、国のほうでは三ツ矢さん、この辺の皆さんの力で上げてもらっている。

激甚災害指定といいますのは、601 億円以上集まらないと、600 億ではだめですね。1 億円。それを先頭きって就任早々の鈴木知事さん、当然後ろのスタッフの方が本当に夜も寝ずに国の査定のつきあい、特に県がすごかったと思います。

なぜかといいますと、あまからトークで皆さん覚えがあるかと思いますが、9 月にやられて、来年の 3 月の田植えは命懸けて間に合うようにしてもらわんとということ言うたけど、家へ帰ってえらいこと約束したったなと。それだけプレッシャーをかけた。それで県さんも町の財政力も大変やったと思う。そこで、町長として、農家のそれぞれの区長さん方、改めて皆さん方にお礼申し上げます。皆さんの手柄です。おおきんな。

あとは、錦地区の津波対策、これがおおむねですが、防災関係は 31 箇所、全部できました。一部、リフォームする部分があります。

今年から減災計画に入りました。スタッフもそのように異動させて、ちゃんとしました。そして、既に県のおかげで西防波堤、錦の方もご承知だろうと思いますが、西防波堤は平成 25 年度、平成 26 年度と、平成 27 年度、さらに次年度になるかわかりませんが、これはパース図です。後ろの山は、ここの下に 1 トン石で巻いている。そして、この下の部分は現状、低い、石の高さまでは、今現在です。海拔、県の指定で 7m30 c m。大体平成 25 年度繰り越していただいて、平成 26 年度で、おおむねの部分ができます。ほかの部分は来年か再来年、鈴木知事さん次第。これは 3 種漁港で大紀町が手伝いたくてもできない箇所です。3 種漁港というのはちょっと大きいんです。それで、これは管理者は知事です。実際には漁業組合長が管理しています。

こういったものはみんなコンピューターグラフィックです。できていません。これは奥川の河口です。河川は県土整備部や県の農林水産とかにお願いせないかんし、我々の縄張りは小さいので、予算があるので、知事に頼んでもいいけど、遠慮してないといけない。ここの部分は議会さんも今日も十分来てますが、うちには合併特例債や過疎債がありますので、ここの安い部分は 1 年でも早く使っというて、既に 6 月議会の補正で決めさせていただいた。今月発注ぐらいのスピードで完成はしませんが、ぼつぼつとやっていきます。

大体、防災に対しても、今言うように何億円という予算を県のほうで手当をさせていただいております。これも併せて知事さんはじめ、県の偉いさん方にもお礼を申し上げますし、これからもご厚情を賜りますようよろしく申し上げます。

## 知 事

ありがとうございます。まずは3年前の台風12号、紀伊半島大水害であります。その際、先ほど町長からお話があったように、阿曾地区の皆さんをはじめ、大紀町内にもたくさんの被害があったにもかかわらず、谷口町長は町村会の会長として、紀宝や紀南のほうが大変なので、そちらを優先してやってほしいと。ちょうど私が知事に就任して5箇月経つか経たないかぐらいのときだったと思いますが。そのときに、私のところはしっかり自分たちの町民で頑張るやるので、南の大変なところを先に助けてくれということ町長から言っていたので、私も紀宝町の部分を中心に、1箇月に10回くらい紀宝町に入って復旧に向けて頑張らせていただいた覚えがあります。あのときも、今回、特別警報というのを大きいのがありましたが、あのとき、9月3日の深夜から4日にかけてがピークで、私、自衛隊に派遣要請をしたのが朝の4時でした。今回、特別警報とか広島の土砂災害の避難勧告とかいろいろ深夜にどうこうという話がありましたが、やはり命を守るためにはちゅうちょせずということで、しかし、確かに判断は難しい部分もいろいろありましたが、そういう意味ではいろんな課題や反省もありましたが、今後の三重県の風水害対策に非常に重要な経験だったのではないかと考えています。

3年経って、やっと今年度中に、熊野の地域も含めてすべての復旧工事が今年度いっぱいなんとか完了をるところまで見込みを付けることができましたので、あとはしっかりと完成するというのと、もう一回、また同じことが起こらないように、例えば今回の台風11号、この8月9日10日にありましたが、県内の川の護岸の中で壊れたり道路の法面が崩落しているところは、一回10年前かにあった台風で直した横が崩れたりしているケースもありますので、今後、そういうことがないように、そういう脆弱な箇所をしっかりと点検をして、各市町と連携をして整備を進めていきたいと思っています。

とりあえず今年は、台風12号から3年というのもありますし、平成16年の宮川村で死者の方もたくさん出た非常に厳しい台風からちょうど10年に今年になります。加えて、今年が昭和34年の伊勢湾台風から55年という節目の年にあたります。ですので、今年、風水害対策について、今後4～5年の三重県としてしっかりと県民の皆さんとやっていくための計画づくりを今年度中に今やっています。その中には最近のゲリラ豪雨とか、あるいは竜巻とか、そういう新しい事象も加えて、どういうふうに皆さんに備えていただくかという計画を今年度中に作って、皆さんのお手元に届けさせていただいて、皆さんと共にそういう備えをしっかりとやっていくことにしたいと思っています。

それから、減災の錦地区の漁港の話もいただきましたが、このハード面の話をする前に、大紀町は全町を挙げて、こういうハード面の堤防とかいろいろなものを整備する以前に、ソフト面で訓練や避難の仕方を含めてしっかりと取り組んでいた

だいています。子どもたちへの防災訓練も隔月でやっていただいたり、そういうハードだけでは命は守りきれないというのは東日本大震災で証明されていますから、そういうソフト面も一緒にやるのが大事であって、それをしっかりと取り組んでいただいているのが大紀町だと、全国からもそういう面での視察にたくさんの方が訪れてきている、そういう状況だと思います。

大紀町の先進的な防災減災モデルを応援させていただこうということで、先ほどの漁港です。管理者は私になっていますが、一つは「L1」と言いまして、最近、国が出した地震・津波予測では、2つの地震・津波を想定して、1つは、この100年から150年で本当に起きた地震・津波のレベル、これは「L1（レベル1）」といます。三重県で言うと、大紀町では64名の方々の命が亡くなった1944年、昭和19年の昭和の東南海地震。これはちなみにそのときから今年70年にあたるので、今年の12月にはその啓発のシンポジウムをやらせていただこうと思っておりますが、その前でいくと、1854年に寛政の地震というのがありました。1707年に宝永の地震がありました。そういうような形ですと100年150年単位で実際に起きた地震に対応するのが「L1（レベル1）」。

「レベル2」というのは、今の科学を駆使して、とにかく論理的に科学的に調べてみたら、論理的可能性はこのくらいあるのではないかと、千年万年級とか、実際に来ていないが論理的にはあり得るといふ「レベル2」という2つの地震・津波が想定されていますが、特にハード整備については、千年万年級全部合わせてハードをするといくらお金があっても足りませんので、実際に100年150年で来たL1レベルの津波に対応していくようなハード整備をしていこうということで、今回、防波堤や耐震強化岸壁を錦地区に造らせていただいております。

この錦漁港は防災拠点漁港としても三重県の地域防災計画に位置付けをさせていただいておりますので、錦漁港に緊急物資輸送の船を着けて、そこから町内や付近の町にも送っていただくような場所に指定しておりますので、そこが崩れてしまったら、内陸のところに緊急物資が送れませんので、そのためのこういう優先した防波堤や耐震強化岸壁をやらせていただいて、今年度も防波堤の整備をしっかりとやらせていただきたいと思いますので、今後も大紀町の減災対策について、三重県としてもしっかりと支援をしていきたいと思っておりますし、ぜひ皆さんには、先ほど申し上げましたとおり、特に風水害において、津波もそうですが、日頃から三重県としては防災の日常化という言葉を使わせていただいておりますが、何かあったときに特別に何かするのではなく、日頃から1箇月に1回、1週間に1回でもいいので、自分はどこに逃げるのかというのを思い出したりして、家族でそういうのを話し合ってくださいという防災の日常化を、今日、今一度、改めて思い直していただくとありがたいと思います。

### (3) 閉会あいさつ

#### 知 事

谷口町長、そして、町議会の先生方、そして、町民の皆さん、今日は「すごいやんかトーク」と「1対1対談」、2時間にわたりまして、暑い最中ではありますが、お時間を割いていただきましてありがとうございました。

本当に日頃から息子のような年齢の私を、町長が非常に陰に日向にご指導をいただいております。私もまだまだ若輩者ではありますが、とにかく一所懸命、誠心誠意、頑張っていきたいと思っておりますので、ぜひ、引き続き町長におかれましてはご指導いただければと思います。

そして、先ほど滝原宮の遷宮のお話をしましたが、こういう皆さんもご存じと思いますが、『東海ウォーカー』という中部圏でつくられている雑誌にも、このように今回の滝原宮の遷宮も載っていますし、また、様々な取組で皆さんが大紀町に住んで良かったな、三重県に住んで良かったなと常に言っていただけるような取組を一所懸命皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

本日は、どうもありがとうございました。